

平成27年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育方針	笑顔が弾ける徳育の開誠館
重点目標	①K-c o m p a s s ・ 7 つの習慣Jに紐づいた実践を伴う教育活動の実施
	②学習の基礎基本の定着・拡充と、表現力の向上を図る授業改善の取り組み
	③部活動や体育活動を通して健全な心身と自主自立の精神の育成
	④3つの徹底（挨拶・時間・服装）と「授業の形」の徹底および自ら考える生徒の育成

学校関係者評価委員による評価

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	自己評価	改善策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	評価の理由、ご意見	
教育課程・学習指導・徳育	<ul style="list-style-type: none"> 授業を中心に学習の基礎基本を定着させるとともに、知識を活用し応用する力を伸ばす。 学年に応じた望ましい学習習慣を形成する。 自ら考える力を養い、それを表現する力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の形」の徹底を図るとともに、学力向上につながる授業改善について各教科で活発な検討が行われるようにする。 学習到達度テストの分析を活かして学年や教科で学習習慣の形成を図る。 アクティブラーニング等、考える力や表現する力を伸ばす指導について情報や取り組みを共有し、実践できるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の形」は繰り返し呼びかけ徹底できたが、教科会議での授業改善話し合いのための時間確保が十分でなかった。 学習到達度テストを定期的に分析し、学習力を向上させることができた。 研究授業や研修会、経験者の指導等を通じて、指導法を共有し少しずつ取り組みを広げることができた。 	各教科で授業改善を話し合う機会と時間が増える仕組みをつくる。具体的にはテーマや目標を決め、研究授業を積極的に活用して、話し合いにつなげていく。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングを取り入れているのはよい 生徒のやる気をや意欲を大切にしてもらいたい 先生によって教え方や技量など差異が大きい。 先生同士の研修、連絡ができていないか クラス間差異などに対して何らかの対策が具体的にとられているか
	<ul style="list-style-type: none"> K-compassの担任実施制により、より実践を伴った取組をする。 7つの習慣Jの、よりレベルアップした指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 徳育プログラムのブランドを構築するための組織的かつ長期的な取り組みをする。 徳育の授業品質の維持・管理をする。 ハード面の管理と環境整備を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「K-compass」の担任実施制を導入したことで、学年教員の関わりがより深化し、授業効果を上げるための土壌の質が向上した。 FTのいない学年(中学)については、各プログラムについて事前にFTによるレクチャーを行い、授業品質の維持および教員のスキルアップにつなげられた。 プロジェクター等の更新、追加を行った。徳育以外のICT機器を用いた他教科の授業の促進にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> より効果を上げるべく、「徳育教育」は「7HJ」、「K-compass」だけではなく、日々のすべての教育活動が「徳育」につながるという教職員の意識をより向上させる取り組みを行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 心を耕してもらっている。 学校外でもいい面が行動になって現れてきている
進路指導	<p>【全体】学年、生徒、家庭への情報提供や進路実現に関する具体的な援助を積極的にを行い、全員が第一志望へ進学・就職することを目指す。</p> <p>【高2】進学：全員が「自らの未来予想図・将来の目標」「自分の性格や適性」を考慮した上で第一志望校を決定できている。</p> <p>就職：全員が自らの理想の将来像を描いた上で主体的に就職を選択しているとともに、希望職種が明確になっている。</p> <p>【高1】進学コース：職業選択や必要になり得る受験科目等を考慮した上で、文理を選択できる。</p> <p>総合コース：キャリア学習、7つの習慣Jを通して自らの理想の未来予想図を設計できるとともに、進路希望の方向性が明確になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路通信の発行回数を増加する。 進路相談体制を充実（進路指導室での進路相談制度の実施）させる。 進路行事を見直し、進路シラバス作成に着手する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路通信は3月末までに3回発行予定。 進路指導室のリニューアルにより、進路指導室に進路相談に来る生徒の数が確実に増加した。 進路シラバス（この時期までに、進路についてこの目標を達成させるという計画）の仮案に着手している。来年度、校内で公開できる予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導が充実しているかどうかは、外部の目から見えにくい。あらゆる機会を利用して情報を発信していくことが重要である。また、実際の進路指導は各担任が主となって行われる。指導する際に、教員が困ることがないように指導内容を整理する必要がある。そのため進路課教員によるバックアップ、情報提供を充実させていくことが、充実した進路指導につながると思う。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 面談を何度もしてくれている 進路資料に失敗例も載せてあるのはよい 進路室をあまり利用できていない。効果的な使い方を指導する方がよい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安全で安心した学校生活を送ることができるように授業での指導を強化する。 先生方が連携し、学校や学年の基準で統一した生徒指導を実践する。 生徒会活動、専門部委員会の活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒課で週1回会合を開催する。 頭髪・服装検査を実施する。（月1回） 巡視を定期的に実施する。 挨拶指導の強化を図る 中高生徒会がそれぞれ独自の活動にも取り組み、互いに切磋琢磨する環境をつくる 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒課から生徒の様子を全教職員に発信することで統一した指導ができた。また頭髪服装検査も定期的に行なうことができ、身だしなみがよく、規範意識を高めることができた。しかし挨拶に関しては生徒によって差があることや校外での服装やマナーの改善が課題である。生徒会の取り組みでは新たな募金活動やあいさつ運動を実施するなど主体性を持って活動し、良い方向に向かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間での情報の共有と統一した指導をさらに継続して取り組んでいく。自ら進んで挨拶や校外でのマナー等の向上ができる取り組みを行う。生徒が主体的に取り組めるよう教員と生徒さらに保護者とコミュニケーションを取り、信頼関係を築いていく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶はよくできている 学校と家庭との信頼関係が大切 自転車の走行については再三にわたり地域の方より苦情の連絡がある。その都度注意している
保健安全管理	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングマインドに対する教職員の意識を高める。 防災意識の向上を図る。 クラス・学年・関係者との連携のとれた保健教育相談活動を行う。 「いじめ防止対策基本方針」に基づくいじめ防止の考え方や対処を、教員・生徒に浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係教職員と連携をとり、より適切な対応ができるようにする。 カウンセリングマインドを生かした本校での取り組みを職員間で共有する。 「いじめのアンケート」の実施、集計、報告をする。 いじめの追跡調査を実施し、アンケート実施後の様子を把握する。 ヘルメット、防災頭巾の管理と防災啓発活動を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施から問題の把握とその対応、全体での共有ができた。またカウンセリングマインドを生かした取り組みを職員間で共有でき、連携を取って、適切な対応ができた。防災用具の管理そして防災訓練もしっかりと行ない、生徒に防災意識を持たせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめを未然に防ぐために行なう取り組みやカウンセリングマインドが浸透していくよう教職員に研修等を実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 大人の目に見えないところで起こっている。SNS関連のいじめ対策の推進は必須
研修（資質向上）	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質向上を目指す。 授業力の向上を目指す。 若手教員及び中堅教員に実践的指導力が身につくように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力や担任力を強化するために、授業参観を積極的に行う。 ICT教育やアクティブラーニングなど先進的な授業を取り入れる。 人材教育指導担当による面接などを実践し、より効果的な指導法を習得させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度アクティブラーニングに関する研修と授業実践、iPadのモニター教員による授業活用は少しずつ進んでいるが、生徒の学力を引き上げるような授業力や担任力の向上は道半ばである。授業参観に変わる一策を考えなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科教育法を研修する時間を全体で創出し、指導法の共有ができる環境作りが必要。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングを広げてもらいたい 教員間のコミュニケーションが取れているか
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 信頼感と満足度、参画意識を高められるPTA活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者には文化祭・体育大会・公開授業等の学校行事に積極的に参加をしていただき、教職員とともに生徒たちを応援・支援してもらえ体制を築き上げる。 地域住民に文化祭に来ていただいたり、自治会長には式典および行事に参加していただき、本校の学校教育に理解と協力を求める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭・体育大会等の学校行事には保護者がたくさん見えてくれた。公開授業については中学生の保護者は多かったが、高校生の保護者は参観者が少なかった。 文化祭のバザーには地域の人も大勢見えてくれた。また入学式や卒業式等の式典や体育大会等にも地元の自治会長を招待して、本校の教育活動に理解を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業のアンケート等で良い評価をいただけるように、授業改善をしていく必要がある。 文化祭は唯一地元の地域住民との交流ができる場でもあるから、おもてなしの心で迎える必要がある。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年を追うごとに行事に多くの保護者が参加してきているのはよいこと。 学級別懇談会にもっと多くの保護者が参加するよう、呼びかけてほしい。